

大会の正しい内容(二〇一五年大会の記載と重複していました)
 総会(明治大学駿河台キャンパス)

二〇一六年度委員

(委員長) 小沢弘明(編集長) 鈴木茂(事務局長) 石居人也(古代史)
 内田康太、椎名一雄、武廣亮平、溝口優樹(中世史) 植田真平、高木徳
 郎、西田友広、原田昂子、平野智洋(近世史) 君塚弘恭、木村直也、児
 王憲治、小二田幸、佐藤雄介、三三昌代、清水光明、武田和久、水村曉
 人、吉岡誠也(近代史) 青木健、荒木圭子、小澤一郎、加藤陽子、金山
 泰志、小志戸前宏茂、佐藤淳平、中村江里、信澤淳、正木慶介、松田圭
 介(現代史) 上地聡子、河合信晴、久保茉莉子、立石洋子、南祐三

大会(第一日)

全体会(人の移動と性をめぐる権力)

清水和裕「初期イスラーム時代の奴隷女性と境域の拡大」

嶺本新奈「からゆきさん」における移動の経験と性の権力」

松本悠子「アメリカ合衆国への移民の流入と人権・性規範の構築」

コメント(松井洋子)

大会(第二日)

古代史部会(日本古代における支配の変遷)

今正秀「摂関期の政治と国家」

コメント(中大輔・神谷正昌)

中世史部会(移行期の社会と富・貨幣)

守田逸人「中世成立期の社会編成と富の生成・分配の構造」

川戸貴史「15・17世紀海域アジアの交流と日本の貨幣」

近世史部会(近世日本の「開国」と政治・社会——新たな国家像の模索
 後藤敦史「幕末外交と日本近海測量」

三ツ松誠「開国」と国学的世界観」

近代史部会(大戦間期における社会意識の変容——人びとにとつての科学
 と文化)

小野直子「戦間期アメリカ合衆国における優生学と大衆文化」

上田誠二「デモクラシー・モダニズム・ファシズムと日本の音楽文化」

コメント(松原宏之・高岡裕之)

現代史部会(軍事・社会空間の形成と変容——米軍との「接触」を中心に)

明田川融「戦後日米関係史断章——行政協定と地位協定という接触面」

長高悦央「一九九〇年代のグアムにおける米軍用地問題とチャモロ・

ナシヨナリズム」

コメント(木戸衛一・ロメロイサミ)

合同部会(3・8世紀における地中海世界を中心とした政治的コミュニニ

ケーションの断絶と継受)

南雲泰輔「クルスス・プブリクスとポイティンガー図——後期ローマ帝

国時代の街道とその図示」

菊地重仁「カロリング期の政治的コミュニケーションにおける書簡の機

能について」

亀谷学「初期イスラーム時代における政治的コミュニケーションの構造

とその変化」

特設部会(歴史研究の成果を社会にどう伝えるのか——「社会的要請」と

歴史学)

片岡伸行「メディアと歴史学——『週刊金曜日』編集の現場から」

吉田浩一「学術出版と歴史学——書籍編集者の立場から」

平川南「歴史研究の成果をどう可視化するか——人間文化研究機構の組

織的共同研究から」